

## 中耕・培土で雑草対策の徹底と食葉性害虫に注意！

### 1 生育概況（6月末現在）

管内における播種作業の始期は6月2日（平年差-3日）、盛期は6月14日（同-5日）となりました。湿害による出芽不良等もありましたが、6月の気温が高く、日照は平年並に推移したことから、6月末現在の生育（6地点平均）は平年よりやや早くなっています（表1）。

表1 6月末の調査結果（R5：6地点）

	主茎長 (cm)	葉数 (葉)
R 5	9.8	1.7
R 4	9.6	0.9
平 年	6.9	0.5
平年比	142%	340%

※平年は過去10か年の平均値を示す。

### 2 中耕・培土

中耕・培土は雑草防除や湿害回避、倒伏抑制などの効果があり、大豆の生育向上を図る上で重要な作業です。今年は6月11日頃に東北北部が梅雨入りし、排水性の悪いほ場では、湿害や管理作業の遅れも見られます。図1を参考に適期作業を行い、生育量の確保に努めてください。ディスク式の培土機は土をこねないため、降雨後早く培土に取りかかれます。

#### (1) 中耕

土壌処理除草剤の効果が切れ、初期雑草の発生が見えたら、本葉第1葉が展開した頃に行います。子葉が隠れない程度に株元に土を飛ばします。

#### (2) 培土【1回目】

本葉第2～3葉が展開した頃、初生葉が隠れない程度に行います。

#### (3) 培土【2回目】

本葉第6～7葉が展開した頃、本葉第1葉が隠れない程度に行います。

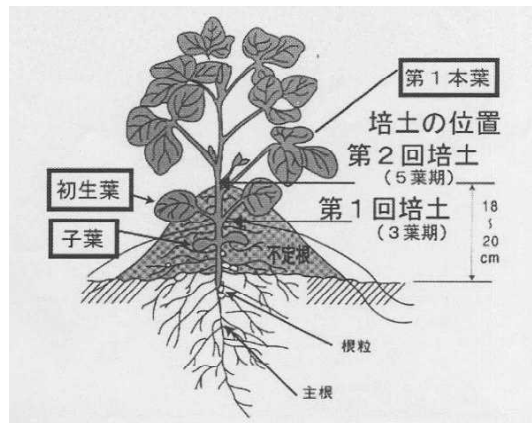


図1 中耕・培土の模式図

### 3 除草対策

当面の雑草防除は中耕・培土により行います。雑草の多発時やほ場が濡れていて作業が実施できない場合は、除草剤を使用します。

対象雑草	農薬名	使用時期及び使用薬量 (mL/10 a)	希釈水量 (L/10 a)
イネ科 雑草	ナブ乳剤	ノビエ 3～5葉期 (150～200)	100～150
	ワンサイドP乳剤	" 3～5葉期 (75～100)	70～100
	ポルトフロアブル	" 3～8葉期 (200～300)	100
広葉 雑草	大豆バサグラン液剤※1	だいたいの2～6葉期 (100～150) [雑草の生育初期～6葉期、草丈45 cm]	100
	アタックショット乳剤※2	だいたいの4～6葉期 (30)	100

※1：適用品種はリュウホウとする。ツユクサやエノキグサ、アカザ等には効果が劣るため発生草種に注意する。また、大型化したタデ類には除草効果が劣る。

※2：気象条件等により薬害を生じる恐れがあるため、使用上の注意をよく確認する。

#### 4 排水対策

大雨により冠浸水が起こった場合は、そのままの状態が続くと大豆の生育が悪くなります。排水溝に繋がるよう溝切りを行う等、排水の徹底に努めてください。また、部分的に明きよが崩れていることもあるため、確認と補修を行ってください。

停滞水が速やかに排出されるよう排水溝同士をつないだり、水尻を深く掘り下げたりすることも有効です。枕地の畝が排水を妨げるような場合は、畝切りを行い排水路を確保してください。排水後は中耕・培土や雑草対策を行い雑草害の回避に努めてください。

#### 5 病虫害対策

6月末の調査では、生育が進んでいるほ場で、害虫による食害痕がみられました。本年のように気温が高い場合は、発生が増加する傾向にあります。仙台管区気象台発表の1か月予報（7月13日発表）によると、東北地方日本海側の天気は、気温が高いと予想されています。今後の病虫害の発生状況に注意してほ場を見てください。

##### (1) ツメクサガ

第1世代幼虫は6～7月に発生し、葉脈を残して葉を食害します。第2世代幼虫は8月に発生し、葉及び莢も食害し収量が低下します。

薬剤名	希釈倍数	散布量	使用時期
エルサン乳剤	1,000倍	100～300 L/10 a	6月中旬～7月中旬、 8月上旬～中旬
トレボン乳剤	〃		
フェニックスフロアブル	4,000倍		

##### (2) コガネムシ

成虫は葉脈を残して食害します。ほ場に定着した個体はほとんど移動しません。

7月上旬から被害が出始め、7月下旬から8月上旬に多くなります。

薬剤名	希釈倍数	使用量又は液量	使用時期
ダイアジノン粒剤5	-	4～6 kg/10 a	発生初期(7月上旬)
マラソン乳剤	2,000倍	100～300 L/10 a	7月中旬～8月中旬

##### (3) ウコンノメイガ

成虫は主に長距離移動により飛来・侵入します。幼虫は葉縁を巻き込み、その中で葉を食害し、また次の葉に移ります。老熟した幼虫は巻いた葉の中でう化します。

被害は7月中旬以降に発生するため、ほ場をよく観察してください。7月6半旬にほ場全体で40～60茎の葉巻数を調査し、1茎当たり葉巻数が1.3個以上あると減収するため、防除を行ってください。

薬剤名	希釈倍数・ 10 aあたり散布量		使用時期
スミチオン乳剤	1,000倍	150～300 L/10 a	7月下旬～8月上旬
トレボン乳剤	〃		
カスケード乳剤	4,000倍		
プレバソンフロアブル5	〃		



↑ウコンノメイガ幼虫



↑葉巻きの様子

\*内容についてのお問い合わせは、農業振興普及課 (Tel 0186-62-1835) へご連絡ください。